

教育研究業績書

2021年5月1日

氏名：善本 眞弓

学位：修士（家政学）

教育上の実績に関する事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 ・保育理論の理解のための教材を導入した授業の展開 ・コミュニケーションスキルアップのための演習を取り入れた授業方法 ・保育実技、指導計画立案の指導 ・ICT(PowerPoint)を活用した発表指導 ・授業外の学習促進のための取り組み 保育実技「パネルシアター」指導 ・小児病棟における病児とのかかわり(遊び)についてのボランティア指導 ・乳児保育所と連携した保育学生の手作り人形制作・寄贈のための学生指導 ・学生研究発表のための指導	平成14年8月～現在 平成15年4月～現在 平成17年4月～現在 平成18年10月～現在 平成21年2月 平成22年2月 平成23年2月 平成26年1月～現在 平成22年9月 平成23年9月～現在 平成22年～現在 平成28年2月	フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー等の保育理論理解のための教材を用意し、提示および学生が体験する授業内容を展開。(保育指導、保育方法、保育原理Ⅱ、保育内容総論、保育者論) 乳幼児・同僚・保護者とのかかわりに必要なコミュニケーション力を高めるためのアクティビティを演習授業内で実施。(保育指導、保育方法、相談援助、保育相談支援、保育内容総論、子育て支援特論Ⅰ、保育者論) 実習に役立つ保育実技(パネルシアター、エプロンシアター、ペーパーサート、パペット(腕人形)、製作、折り紙、手作り玩具など)の制作指導、実演指導を行い、同時に要点をとりえた実習指導計画の立案についての指導を実施。(保育実習(事前)指導、教育実習(事前)指導、保育実習指導Ⅱ) 卒業レポート発表会(YMCA スポーツ専門学校、YMCA 健康福祉専門学校)、実習報告会(北里大学)、保育実践演習発表会(新渡戸文化短期大学)、課題研究(東京成徳大学)のための研究発表の手順・方法の指導。 乳幼児の特性を考慮したパネルシアターのボード及び作品の制作、実演についての特別講座を担当。後日、個別に実演指導を行う。 病気の子ども・障害のある子どもに関心をもつ学生に、小児病院外来プレイコーナーにおける遊び支援活動の指導を実施。 学生(希望者)が乳児保育所の通う園児に人形を制作し、寄贈するプロジェクトを実施。学生は特定の一人の子どものための人形を制作する。園児の家庭には布団づくりなどの協力を求め、担当保育士から子どもの様子を聴取し、学生にフィードバックする。学生・子ども・保育士・保護者を間接的に結ぶ取り組みにおける学生の指導。 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会第29回学生研究発表会(大妻女子大学)における発表学生の要旨集原稿・発表原稿・PowerPoint 作成および発表のための指導を担当。
2 作成した教科書・教材 【教科書】 ・『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 ・『実習における遊びの援助と展開』	平成21年5月 平成23年5月	「保育実習指導」「保育計画」「保育課程論」「保育実習指導Ⅱ」のテキストとして使用。「保育内容総論」「教育実習指導」の参考文献として使用。 「保育内容総論」「保育方法」「乳児保育」において参考教材として使用。「保育実習指導Ⅱ」のテキストとして使用。

<ul style="list-style-type: none"> 『保育の学びスタートブック』 『エピソードから楽しく学ぼう保育内容総論』 『学び続ける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 	<p>平成 24 年 5 月</p> <p>平成 24 年 7 月</p> <p>平成 26 年 5 月</p>	<p>「基礎ゼミ」、初年度教育の教材として使用。保育についての学びをサポート。</p> <p>「保育内容総論」のテキストとして使用。</p> <p>「教育実習指導」「保育実習指導」のテキストとして使用。</p>
<p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科のレジメ・プリントの作成 	<p>平成 15 年 4 月 ～現在</p>	<p>「乳児保育」「保育方法」「保育計画」「保育内容総論」「保育指導」「保育実習指導」「教育実習指導」「ゼミナール」「保育」「児童文化Ⅰ・Ⅱ」「おもちゃ論」「保育内容総論」「保育課程論」「保育相談支援」「相談援助」「子育て支援特論Ⅰ」等、各授業科目において、授業内容に関する資料、ワークシートを作成。特に演習科目「保育方法」(和泉短期大学)、「保育」(北里大学)、「保育介護概論(保育分野)」(新渡戸文化短期大学)、「子育て支援特論Ⅰ」ではテキストを使用せず、すべての教材を作成し、「読む・聴く・考える・書く・話し合う・発表する」ことを重視した書き込み式のワークシートを作成して授業を展開している。</p>
<p>3 当該教員の教育上の実績に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 浦和大学子ども学部設置委員会による評価 	<p>平成 18 年 9 月</p>	<p>「専任教員予定者として、大学、短期大学における教員経験に加えて、保育士、幼稚園教諭としての保育、幼児教育経験を有し、保育及び実習等に関する研究業績を評価し、教育として本学部における教育上の能力を十分に備えたものと判断する。」という評価を得る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 浦和大学子ども学部子ども学科設置認可申請教員資格審査認定 	<p>平成 18 年 11 月</p>	<p>教員資格審査において、「教育実習」「教育実習指導」担当教員として認定。</p>
<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> おもちゃインストラクター養成講座講師 	<p>平成 25 年 9 月</p> <p>平成 26 年 6 月</p> <p>平成 27 年 9 月</p> <p>平成 28 年 10 月</p>	<p>新渡戸文化短期大学の学内において「おもちゃインストラクター養成講座」を導入し、講師を担当。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 専門性スキルアップ講座講師 	<p>平成 26 年 2 月</p> <p>平成 27 年 2 月</p>	<p>新渡戸文化短期大学 子ども教育研究所・社会人教育実施委員会主催の現職保育者を対象にした「専門性スキルアップ研修会」において講師を担当。 テーマ:「乳幼児の自発的な遊びを促す玩具 かんたん楽しい手作り玩具」</p> <p>テーマ:乳児保育を新たな視点で「乳児の遊び環境と援助ー自発的な遊びと発達を保障するおもちゃ・保育室保育者の援助」</p>
<ul style="list-style-type: none"> 公開セミナー講師 	<p>平成 26 年 10 月</p>	<p>新渡戸文化短期大学 新渡戸際・公開セミナーにおいて「玩具の魅力 赤ちゃんから高齢者まで」の講師を担当。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 高大連携授業担当 	<p>平成 27 年 1 月</p> <p>平成 28 年 1 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新渡戸文化高等学校・授業科目「生活デザイン」の授業において、子ども・保育関係の内容を担当。

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
<p>1 資格 免許 幼稚園教諭二種免許状 保母(現:保育士)資格 幼稚園教諭一種免許状 幼稚園教諭専修免許状 おもちゃコンサルタント おもちゃコンサルタント・マスター</p>		<p>特定非営利法人日本グッド・トイ委員会認定資格 特定非営利法人日本グッド・トイ委員会認定資格</p>
<p>2 特許等</p>		<p>特になし</p>
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項 ・保育実習における学生指導 ・教育実習における学生指導</p>		<p>保育所勤務時に短期大学からの実習生の指導を担当。 幼稚園教諭として短期大学生の教育実習指導を担当。</p>
<p>・地域子育て支援施設サポーター研修会講師</p>	<p>平成 14 年 9 月 19 日</p>	<p>特定非営利活動法人びーのびーの(地域子育て支援施設)のサポーターを対象にした「乳幼児と絵本」「子どもと絵本のかかわり」「絵本の読み聴かせ」に関する講座を担当。</p>
<p>・小児科における子育て支援講座講師</p>	<p>平成 16 年 11 月～21 年 1 月</p>	<p>小児科(横浜市港北区 太尾こどもクリニック)において、家庭で子育てをする0・1・2歳児の親を対象にした「赤ちゃん講座」(テーマ:赤ちゃんと遊ぼう, 赤ちゃんと絵本のかかわり, 読み聞かせ, 生活リズム, ほめ方・しかり方, 幼稚園選びと入園準備, 手作りおもちゃ, 遊びほか)の講師を担当。</p>
<p>・大和市乳幼児家庭教育セミナー講師</p>	<p>平成 17 年 6 月 3 日 6 月 10 日</p>	<p>「すてき育児 2005 子育てを楽しもう! ～元気なこどもに育てよう!」をテーマに、家庭で子育てをする未就園児を持つ母親を対象にした講座を担当。 「ほめ方・しかり方」講座を担当。 「生活リズムの大切さ・整え方」講座を担当。</p>
<p>・不登校児と親のためのサークルスタッフ 研修会講師</p>	<p>平成 20 年 11 月 18 日</p>	<p>横浜市港南区地域ケアプラザにて、不登校の親のサークル「千の夢」のスタッフを対象にした研修会「不登校の子どもとかわるおもちゃ～コミュニケーションおもちゃ」の講師。</p>
<p>・子育て支援サークル講演会 「おもちゃを学ぼう」講師</p>	<p>平成 21 年 6 月 13 日</p>	<p>横浜市港南区地域ケアプラザにて、子育て支援団体「子育てまち育て塾」の講演会において、スタッフおよび乳幼児を持つ親を対象に、「発達とおもちゃ」「おもちゃの選び方」「家庭でのおもちゃの扱い方」「質のよいおもちゃの紹介」などの講座を担当。</p>
<p>・保育所職員研修講師</p>	<p>平成 21 年 4 月 4 日 平成 22 年 2 月 22 日 3 月 24 日 平成 25 年 8 月 30 日</p>	<p>YMCA とつか・乳児保育園職員研修講師。 「低年齢児の保育室のおもちゃと遊び環境」 「0・1・2歳児のおもちゃと遊び part1」 「0・1・2歳児のおもちゃと遊び part2」 「0・1・2歳児のおもちゃと遊び, 保育室の環境構成と保育士のかかわり」</p>

	平成 26 年 2 月 25 日	YMCA とつか・保育園職員研修講師。 「保育における玩具と遊び、環境設定と保育者のかかわり」
・おもちゃコンサルタント・マスター養成講座 講師	平成 21 年 ～現在	東京おもちゃ美術館において、おもちゃコンサルタント・マスター養成講座の 「病児とおもちゃ」「おもちゃコンサルタント・マスターとしての活動・病児・地域・ おもちゃ」についての講義を担当。
・おもちゃインストラクター養成講座講師	平成 21 年 ～現在	和泉短期大学、湘北短期大学、上智社会福祉専門学校、新渡戸文化短期大 学、帝京大学等において、学生および社会人を対象におもちゃインストラク ター養成講座の講義と演習を担当。
・おもちゃコンサルタント養成講座講師	平成 22 年～現 在	東京おもちゃ美術館において、おもちゃコンサルタント養成講座の「おもちゃ リサーチ研究報告」および「グッド・トイ選考」「子どもの発達とおもちゃ」につい ての講義を担当。
・日本ベビーサイン協会関東勉強会講師	平成 22 年 10 月 29 日	ベビーサイン講師を対象に、女性と仕事の未来館(港区)にて、「パネルシアタ ー」についての講義と製作・実演指導を担当。
・玩具福祉学会玩具療法士養成セミナー講 師	平成 22 年 11 月 20 日	第 3 回玩具療法士養成セミナー(子どもの城)において「病院内のこどものおも ちゃと遊び」について講義を担当。
・おもちゃコンサルタントスキルアップ講座 講師	平成 22 年 11 月 28 日	東京おもちゃ美術館にて「病児の遊びとおもちゃ」の講座を担当。
・芸術教育研究所「夏の芸術教育学校」講師	平成 23 年 7 月 ～現在	中野サンプラザにおいて、現職の幼稚園教諭・保育所保育士を対象にした保 育の場で実践できる「0・1・2 歳のパネルシアター」「子どもとつくるパネルシア ター」「保育で楽しむパネルシアター～制作とさまざまな活用法を学ぶ～」1 日 講座(講義と製作・実演指導)を担当。
・日本グッド・トイ委員会 グッド・トイ選考 運営委員会勉強会講師	平成 24 年 3 月 25 日	東京おもちゃ美術館にて「まごとの道具と遊び」についての講義を担当。
・入院児のための活動サークル勉強会講師	平成 24 年 6 月 2 日	東邦大学医療センター大森病院・ひだまりの会(ボランティアサークル)スタッ フおよび患児の保護者、看護学生、保育関係者を対象に「病児の遊びとかか わりの留意点」「家庭におけるおもちゃの選び方・扱い方」についての講義を 担当。
・保育所職員・父母の会合同勉強会講師	平成 24 年 11 月 16 日 平成 25 年 11 月 22 日	東邦大学医学部付属東邦大学保育園にて、「0 歳から就学前までの子どもの発 達と遊び～遊びを支える玩具」についての講義とワークショップを担当。
・横浜市社会福祉協議会 横浜子育てサポ ートシステム提供・両方会員予定者研修会講 師	平成 24 年 7 月 ～現在	横浜市社会福祉協議会が主催する、地域の子育て支援制度の預かりおよび 預ける方を対象とした講座の「発達と生活～年齢による生活習慣について」、0 歳から就学前乳幼児の発達と生活習慣、関わり方などの講義を担当。
・地域子育て支援施設研修会講師	平成 25 年度～ 現在	横浜市神奈川区の地域子育て支援の広場「すくすくらんど」「ひだまり」などの 子育て支援者を対象にした研修会にて「0・1・2 歳児の子育て支援・子育て支

		援」子育て広場における子育て支援～子育て支援者に求められること」など、乳幼児の発達、現代の子育て状況、支援についてなどの講義を担当。
・「春の芸術教育学校・アートフォーラム」分科会助言者	平成 27 年 2 月 平成 28 年 2 月 平成 29 年 2 月	現職の幼稚園教諭・保育所保育・地域子育て支援者を対象にした、芸術教育研究所主催の「春の芸術教育学校・アートフォーラム」(1年間の表現活動を振り返り、豊かな保育をめざす)分科会(実践から学ぶ乳幼児の表現活動報告)おもちゃ分野の助言者を担当。
・「グッド・トイ 2015in ひろさき」研修会講師	平成 27 年 11 月	青森グッド・トイ委員会主催の研修会「グッド・トイを学ぼう～多様なおもちゃの活用法～」の講師を担当(青森県弘前市ヒロロにて)。
・グッド・トイカフェ講師	平成 28 年 1 月	岐阜県・岐阜産業会館における「クラシド 2016」において、演題「グッド・トイとは何?～おもちゃの選び方・遊び方」について講演。
・学童保育スタッフ研修講師	平成 28 年 3 月	YMCA とつか学童クラブの学童指導員を対象に、学童の遊び～環境構成・玩具と援助についての研修講師を務める。
・WOMAN IN TOYS 勉強会講師	平成 28 年 7 月	「子どもの発達とおもちゃとのかかわり～発達と自発的な遊びを保障するおもちゃの魅力」をテーマに講師を務める。
・芸術教育研究所「夏の芸術教育学校」講師	平成 28 年 8 月	中野サンプラザにおいて、現職の幼稚園教諭・保育所保育士を対象にした芸術教育研究所主催の「見直そう! 保育の環境づくり」を担当。
・二葉保育園・白幡保育園 福祉会研修会講師	平成 28 年 10 月	「保育の質を考える～子どもたちの豊かな遊びと生活を保障する環境構成と保育者の援助～」をテーマに講師を務める
・「グッド・トイ 2016in ひろさき」研修会講師	平成 28 年 11 月	青森グッド・トイ委員会主催の研修会「子どもの発達とおもちゃ・遊び～発達を支えるおもちゃの力」の講師を担当(青森県弘前市ヒロロにて)。
・福島県飯館村子育て支援センターすくすくイベント講師	平成 29 年 2 月	「すくすく子育て・楽しく子育て～発達と遊びと無理のないかかわり」をテーマに講師を担当。
社会における活動		
【病児・障害をもつ子どもと家族の支援活動】 ・国立成育医療センター「おもちゃライブラリー」病児の遊び支援活動	平成 18 年 7 月 ～20 年 3 月	病児と親の遊び支援をマンツーマンで行う。 (定期的な医師とのカンファレンスあり)
・神奈川県立こども医療センター「おもちゃの広場」病児と家族の遊び支援活動	平成 19 年 8 月 ～現在	外来プレイコーナーおよび病棟プレイコーナーに質のよいおもちゃを持ち込んで「おもちゃの広場」(月各1回)を開催し、病児と家族の遊び支援活動を実施。入院児のベッドサイドで個別の遊び支援を行うこともある。 (平成 21 年 3 月～活動グループ副代表) (平成 21 年 4 月～院内のボランティアニュースにおもちゃの紹介記事を執筆)
【地域子育て支援活動】 ・地域子育てサロン「おもちゃの広場」	平成 20 年 5 月 ～現在	湘南とつかYMCA(横浜市戸塚区)において、年間 4～5 回、地域の 0 歳から 3 歳までの未就園児と親を対象に、質のよいおもちゃを提供した集いの広場を開催。 親子の遊びの場、親の仲間作りの場、子育て相談の場を設定。 (平成 23・24 年度は月 1 回程度開催)
「赤ちゃん木育広場」「木育寺子屋」を開催		0 歳児を対象にした国産木材を使用した木製玩具のみを提供する「赤ちゃん木育広場」、0 歳児を育てる親を対象に「木育」についてわかりやすく説明する「木育寺子屋」の講師を担当。

<p>・「おもちゃで遊ぼう親子の広場」企画・開催</p>	<p>平成20年5月 18日</p>	<p>湘南とつかYMCA(横浜市戸塚区)アリーナにおいて、地域の乳幼児から小学生とその家族を対象にしたおもちゃを用いた遊びの場を提供する「親子の広場」を企画・開催。</p>
<p>・「さわって遊ぼうおもちゃの広場」開催</p>	<p>平成21年6月 20日</p>	<p>横浜市港南区港南台第二保育園にて、地域の0歳から3歳までの未就園児と親を対象にしたおもちゃにふれて親子で遊ぶ集いの広場を開催。</p>

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 (再掲)	共著	平成21年 5月20日	萌文書林	執筆者：久富陽子, 梅田優子, 小櫃智子, 善本眞弓, 飯塚朝子 執筆担当箇所： pp.49-64 PART2第2章「2. 保育所(異年齢児保育)での指導案を例に」 pp.98-114 PART3第2章「5.ペープサート」「6. パネルシアター」「7.エプロンシアター」「8.表現遊びースタンピング」 pp.163-195 PART3第4章【保育所実習】 全日(責任)実習の指導案の実例と検討 概要：改訂幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容を踏まえ、幼稚園・保育所の実習における指導計画の考え方・立て方について解説した。 保育所の異年齢保育の指導案・全日(責任)実習指導案・部分実習指導案の立案について、実例と修正例を提示し丁寧に解説した。
2『実習における遊びの援助と展開』(再掲)	共著	平成23年 5月11日	萌文書林	執筆者：久富陽子, 小櫃智子, 善本眞弓 執筆担当箇所：Practice 実践 pp.53-64「4粘土」、pp.65-76「5積み木」、 pp.77-88「6ブロック」、pp.125-136「10 ままごと」、pp.137-148「11 水遊び」、pp.149-160「12 自然とのかかわり」 概要：幼稚園・保育所など保育の場で展開される子どもの自由な遊び12種類を取り上げ、援助のポイント・事例・遊びの読み取り・実習生の具体的な援助などについて解説した。 各遊びについて全体的な「援助のポイント」「Q&A」について解説し、低年齢児・3歳児・4歳児・5歳児の具体的事例をあげ、遊びの見方や援助について解説しチェックポイントをまとめた。
3『保育の学びスタートブック』(再掲)	共著	平成24年5月 17日	萌文書林	執筆者：久富陽子, 善本眞弓, 片川智子, 金瑛珠, 坪井瞳, 大村あかね 執筆担当箇所： PART1おさえたい! 保育の基本 p.8 子ども p.9 topic 子どもと楽しむ保育実技① PART2知りたい! 保育の実際 pp.40-41 幼稚園・保育所の一年 p.43 topic 子どもと楽しむ保育実技② pp.44-45 幼稚園・保育所の行事・記念日 pp.52-53 行事の展開 pp.54-55 topic 季節ごとのテーマ・風物詩 pp.56-59 保育の表現技術 PART4身につけたい! 生活と仕事のマナー pp.100-101 食事と睡眠の自己管理 pp.102-104 実習での見出しなみ pp.105-107 声の大きさと話し方 pp.108-110 立ち居振る舞い pp.111-113 電話のかけ方

<p>4『親から頼りにされる保育者の子育ち支援 - 気になる子ども、気になる親も一緒に保育 - 』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 7 月 20 日</p>	<p>黎明書房</p>	<p>pp.114-115topic 敬語 pp. 120-125 履歴書の書き方 概要：保育者養成校入学生定者の自己学習及び新入生ガイダンス等で学んでおきたい保育の基本、幼稚園・保育所の理解・授業の受け方、保育学生としてのマナーなどを解説し、書き込み式ワークシートを作成した。</p> <p>執筆者：太田和洋, 安梅勲江, 津村薫, 竹外志保子, 前田泰弘, 星順子, 善本眞弓, 木原有紀</p> <p>執筆担当箇所： pp.73-83 第3章子育ち支援, 親支援の実践術 2 子育てひろばの子育ち支援・親支援 ①子育てひろばの“気になる子, 気になる親” ②気になる親への理解と支援のアプローチ 概要：子育て広場に参加する親子への支援者の関わり方について解説する。 「子どもを見ない・子どもと遊ばない親」「関わりにくい雰囲気のある親」「子どもの発達や子育てに不安をもつ親」「ルールを守らない親」「子どもに手をあげる・激しく叱る親」「子どもに手をかけ過ぎる親」の6種の具体的事例をあげ、支援者が親を理解するための考え方・受け止め方、支援者から親または子どもへのアプローチの仕方を解説している。</p>
<p>5『エピソードから楽しく学ぼう保育内容総論』(再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成25年 3月 25 日</p>	<p>創成社</p>	<p>執筆者：福崎淳子, 山本恵子, 及川留美, 善本眞弓, 寒河江芳枝, 伊勢玲奈</p> <p>執筆担当箇所および概要： pp.19-48「第 2 章 保育内容の歴史の変遷について学ぼう」 概要：わが国の幼稚園・保育所の創始（明治時代）から現在までの保育内容の変遷（幼稚園保育及設備規程、保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針）について、時代背景やその時代の思想などを含めて解説している。 pp.85-116「第 4 章 保育内容における遊びの意義について考えてみよう」 概要：幼稚園教育要領における遊び、保育所保育指針における遊びの考え方、遊びの必要性、各種遊び論について解説した。続いて、保育における一斉保育における遊び、自由な遊びと保育者の援助などについてエピソードをあげて解説し、最後に遊びの場面で保育者に求められることについてまとめた。</p>
<p>6.『学び続ける保育者をめざす実習の本』(再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 26 年 5 月 29 日</p>	<p>萌文書林</p>	<p>執筆者：久富陽子, 善本眞弓, 五十嵐裕子, 堀科</p> <p>執筆担当箇所： 第 1 部 実習の前に pp.6-12 「2 実習で出会う子どもたち」 概要:0 歳から 18 歳までの心身の発達についてまとめた。また、発達障害など特別な支援が必要な子ども、外国人の子どもについて解説した。 pp.13-17 「3 実習に必要な心構え」 概要:実習園や施設が求める実習生について解説した。</p>

				<p>pp.18-19 「4実習先について知る・保育所」 概要:保育所の実習で学びたいことについて解説した。</p> <p>第2部 実習の進め方 2実習中に pp.49-55 「指導計画」(指導案) 概要:指導計画の作成・作成前の注意事項・作成の手順・考え方・書き方について解説した。</p> <p>pp.56-57 「実習中に困った！」 概要:遅刻、体調不良、子どものケガやかかわりなど、実習中の困難について解説した。</p> <p>pp.58 「実習生が気をつけること」 概要:守秘義務・個人情報の保護等、実習中の注意事項について解説した。</p> <p>付録 pp.72-81 「実習に生かせる楽しい保育実技」 概要:幼稚園・保育所実習ですぐに行える自己紹介、手遊び、表現遊びの実例を紹介した。</p> <p>pp.82-90 弾ける！超かんたん楽譜集 概要:保育の場で歌われる曲のピアノ伴奏を初心者向けに編曲して紹介した。</p>
(学術論文)				
1「乳児を持つ親への子育て支援プログラムの構築-乳児健診の『子育て相談』と連携した『子育て講座』の提案	単著	平成19年3月15日	和泉短期大学研究紀要 第27号	<p>pp. 35-43 小児科で行う乳児健康診査時の「子育て相談」における、生後13ヶ月未満の子どもを持つ親の相談事項等を分析した。 その結果、親の半数以上が何らかの不安を持っていることが明らかになった。不安の内容を以下の4つの項目、乳児の「成長・疾病」「運動・発達」「心理・行動」などの生活習慣、親の日常的な子どもへのかかわり「育児方法」に分類し、これらを組み込んだ、乳児健診と連携した「子育て講座」の実践的なプログラムを提案した。</p>
2「家庭における低年齢児のおもちゃ-親の玩具意識と現状」	単著	平成20年3月15日	和泉短期大学研究紀要 第28号	<p>pp. 9-20 0・1・2歳児を持つ親を対象に、親のおもちゃに関する意識、および家庭にあるおもちゃを素材別に調査し、家庭における低年齢児のおもちゃ環境について分析した。その結果、ほぼ全家庭にプラスチック製のおもちゃがあったが、安全性を重視する親はほぼ半数で、おもちゃの知識・本質的な理解に乏しいことが確認された。保育の場・子育て支援の場において、親にも質のよいおもちゃに触れる機会を提供し、理解や積極的な選択を可能にする機会を提供する必要性を述べた。</p>
3「保育学生の社会的スキル-保育学生の特徴と保育者養成に求められる教育」	共著	平成21年3月15日	横浜女子短期大学研究紀要 第29号	<p>pp. 27-38 善本孝、善本眞弓 保育者養成課程在籍の短期大学生を対象に社会的スキルに関する質問紙調査を実施し、非保育学生との比較から、保育者養成に求められる社会的スキルについて検討した。表面的・基本的スキルを身につけているものは多いが、逆行への抵抗力、積極性・自己主張性、課題達成などのスキルに弱さが見られた。学生の社会的スキルの認識を高め、自己主張・課題解決能力の向上を視野</p>

<p>4「おもちゃを活用した子育て支援『おもちゃの広場』の独自性」</p> <p>5「通院児への遊び環境の提供-外来『おもちゃの広場』の有用性」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成21年3月15日</p> <p>平成22年3月15日</p>	<p>和泉短期大学研究紀要第29号</p> <p>和泉短期大学研究紀要第30号</p>	<p>に入れた授業の展開が求められることを明らかにした。</p> <p>pp. 63-72 おもちゃに重点をおいた子育て支援活動「おもちゃの広場」の開催者に聞き取り調査を実施した。 「おもちゃの広場」の独自性は、よいおもちゃの提供とおもちゃに関する専門性を持つスタッフがいることである。また、参加者がおもちゃや遊びの楽しさを感じ、おもちゃや遊びの重要性に気づく場になっていること、(最近希薄であるとされる) 親と子のかかわりをサポートできる場になっていることが検証された。</p> <p>pp. 41-49 長期的な通院を必要とする子どもが通う病院の外来プレイコーナーで開催される「おもちゃの広場」の有用性を検討した。その結果、子どもが質のよいおもちゃにふれる機会、家族やそれ以外の他者とかわる機会、不安や緊張が軽減する場になっていることが確認された。家族自身のおもちゃへの関心、待ち時間の苦痛の軽減なども確認され、通院児と家族に遊び環境(場・人・もの)を提供することは有用であることが認められた。</p>
<p>(その他) 【口頭発表】</p> <p>1「保育者としての男性への子どもからのかかわり」</p> <p>2「男性保育者への期待 同一園内における期待の『一致』と『ずれ』」</p> <p>3「乳児を持つ親の子育て不安-乳児健診における発達相談の内容分析」</p>	<p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p>	<p>平成17年5月21日</p> <p>平成18年5月20日</p> <p>平成19年5月19日</p>	<p>日本保育学会第58回大会(大妻女子大学)</p> <p>日本保育学会第59回大会(浅井学園大学)</p> <p>日本保育学会第60回大会(十文字学園女子大学)</p>	<p>保育所の男性保育者に対する子どもからのかかわりについて、園長・男女の保育士に聞き取り調査を実施し、スクリプトを作成し分析した。子どもからのかかわりは、激しさ・強さを伴うかかわり、密着したスキンシップ、身体的特徴への注目の「身体的」なかわりと、友だち意識・ライバル意識、父性的意識、性差を意識した態度の「精神的」なかわりにぶるいされる。子どもは男性らしさだけを求めるのではなく、多面的なかわりを求めていることが明らかになった。</p> <p>同一保育所に勤務する園長・男女保育者に聞き取り調査を実施し、三者間の男性の保育者に対する期待の一致について考察した。園長と男性の保育者の期待はほぼ一致し、保育実践の質が高まっていることが推察された。一方、男女の保育者の一致度はやや低く、男性の保育者の増加・定着には男女の保育者の意識の「ずれ」を解消する努力が必要であることが明らかになった。</p> <p>小児科の乳幼児健診を受診した満13ヶ月未満の親の発達相談記録を集計・分析し、15年前の調査結果と比較・検討した。相談内容について、15年前と比較して、子どもの性的問題(アレルギー系の心配等)や運動の発達(寝返り・おすわり・はいはい等)</p>

<p>【ポスター発表】 4「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅰ」</p>	<p>共同</p>	<p>平成17年5月 21日</p>	<p>日本保育学会第58回大会 (大妻女子大学)</p>	<p>について不安や心配を持つ親が増加しており、特に生後9ヶ月児までの親にその傾向が顕著であることが明らかになった。子育て講座の開催、子育て支援施設の参加勧奨などを提唱した。</p> <p>高橋利子、善本眞弓 保育者養成課程で学ぶ男子学生に対する保育現場受け入れについて、男女保育学生の保育所実習における評価を比較・分析した。その結果、男女学生間の「子どもとの関係」「実践上の方法技術」「全体的な実習態度」「総合評価」について顕著な差は認められなかった。しかし「保育目標の理解」「保育計画の立案」「保育記録の記述(実習日誌)」など「書く」ことに関する面が男子学生に不足していることが明らかになった。</p>
<p>5「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅱ」</p>	<p>共同</p>	<p>平成18年5月 21日</p>	<p>日本保育学会第59回大会 (浅井学園大学)</p>	<p>尾上佳代、善本眞弓 男子保育学生の実習受け入れについて、第1回保育所実習終了後の学生に質問し調査を実施した。 実習園の男性用設備は不十分であったが、実習内容及び0歳児クラスへの配属に男女差は見られなかった。力仕事、ダイナミックな遊び、運動遊び等については、男子の方が園からの期待を感じており、5歳児クラスへの配属は男子が2割上回っていた。しかし、男子の採用・実習受け入れに難色を示す園が理由としてあげる「男性用設備の不備」「モデルとなる男性保育者の不在」は、男子学生にとっての「困難」ではないことが明らかになった。</p>
<p>6「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅲ-男子保育学生はいかに保育職を目指しているのか」</p>	<p>共同</p>	<p>平成19年5月 19日</p>	<p>日本保育学会 第60回大会 (十文字学園女子大学)</p>	<p>尾上佳代、善本眞弓 保育者養成課程で学ぶ学生を対象に、入学時と第一回保育所実習終了時点の進路希望、保育職に関する不安について質問紙調査を実施した。男子学生の5割が入学時に「子どもが好き」という理由で希望進路に保育所をあげていたが、実習経験を経て、自らの適性や経済面(低い収入)への不安、他職種への興味をあげ、実習終了後には3割弱に減少することが明らかになった。</p>
<p>7「小児科における子育て講座の意義-乳児健診と連携した単独講座と連続講座」</p>	<p>単独</p>	<p>平成20年5月 18日</p>	<p>日本保育学会第61回大会 (名古屋市立大学)</p>	<p>小児科で実施した子育て講座(低年齢児対象)について、単独講座(テーマ選択型)と、連続講座(0歳児対象)の参加者の意識を、終了後の質問紙から分析した。単独講座はテーマ選択参加であるため、疑問や困難を抱えて参加が多いので個別の困難等への対応に有効である。0歳児対象の連続講座には、生後1年までの全般的な子育てに関する不安のサポ</p>

8「おもちゃを通じた病児支援-通院児への遊び環境の提供の意義」	単独	平成21年5月17日	日本保育学会第62回大会 (千葉大学)	<p>ート、メンバー相互の交流（子育ての仲間作り）をサポートする意義が見いだされた。</p> <p>小児病院における通院児と家族を対象にしたおもちゃと遊びのサポート活動「おもちゃの広場」について、子どもの様子・家族の様子などの活動記録を分析した。</p> <p>「おもちゃの広場」は病気や障がいのある子どもや家族にとって、多様なおもちゃ遊びにふれる機会、病状や発達に合ったおもちゃで遊ぶ機会、家族以外の他者とかわる機会になっていることが明らかになった。地域活動等に参加しにくい親にとっても、安心できる遊びの場になっている等の意見が見いだされた。</p>
9「2歳児と自分の人形-保育学生の手作り人形から派生する関係性」	単独	平成22年5月23日	日本保育学会第63回大会 (松山東雲女子大学)	<p>保育学生が保育所の2歳児にひとり一体の人形を製作した。その過程における学生の意識の変化を検証した。保育学生は子どもが自分の人形を持つことに肯定的で、製作過程において人形に対する愛着を抱き、子どもと人形の関係性への期待、保護者への期待を持つなど、プラスの変化が確認された。学生自身が人形と実体的関係を築き、子どもと人形の関係性への期待を持ち、実習以外の機会に子どもや保護者への思いを巡らし、想像的關係性を持つことが明らかになった。</p>
10「低年齢児のあそび環境-保育園児が自分の人形を所有することの意義-」	単独	平成23年5月22日	日本保育学会第64回大会 (玉川大学)	<p>保育所に通う2歳児が自分の人形を持つ保育環境について、保護者と保育者の視点から考察した。</p> <p>保護者は子どもと人形の関わりから、子どもの認知の発達や情緒の安定への変化を感じている。保育者は子どもの遊びや行動の変化を認識し、情緒の安定につながっていることを認めている。保護者及び保育者は共に子どもが自分の人形を持つ保育環境を肯定的に評価していることが明らかになった。</p>
11「低年齢児の遊び環境2-子どもと自分の人形とのかわりに着目して-」	単独	平成24年5月5日	日本保育学会第65回大会 (東京家政大学)	<p>保育所の1・2歳児と自分の人形とのかわりについて、保育者及び保護者への質問紙調査、保育者への聞き取り調査を実施した。人形の世話遊びが顕著に確認され、大人の模倣や生活の再現がなされ、かわいがられる存在からかわいがられる存在への契機になっていること、人形が入眠時の安心材料になっていること、人形が家庭と園とのつながり・移行を円滑にする仲介的役割を担っていることが明らかになった。</p>
12「保育学生の玩具についての認識-幼少時の玩具体験から-」	単独	平成25年5月11日	日本保育学会第66回大会 (中村学園大学)	<p>保育学生の幼少期の玩具・遊び体験・遊び観・玩具について質問紙調査を行った。玩具の質や量を重視し、電子ゲームを幼児に与えることには否定的である。しかし、知識不足からか、自分が子どもの玩具を選択したいという意欲は低い。玩具に好感をもち、保育に導入したい、玩具の知識を得たいという意欲は高いので、養成課程において玩具体験・玩具についての学習の機会を設ける必要があること</p>

<p>1 3 「保育者養成における『木育』の実践が保育学生に及ぼす影響-保育に役立つ『箱椅子』づくりを通して-</p>	<p>単独</p>	<p>平成 26 年 5 月 18 日</p>	<p>日本保育学会第 67 回大会 (城南学園・大阪総合保育 大学)</p>	<p>を述べた。 保育学生が「木育」活動として幼児用の杉の椅子作りを体験した。事後の振り返りシートの分析と聞き取り調査を行った。①制作の楽しさと木への知識・関心の高まり、②作品への愛着と次への意欲、③仲間との助け合いやコミュニケーション、④目の前にいない子どもへの思い、安全への配慮、実習への意欲などが確認され、保育学生が木育活動を行うことの効果が明らかになった。</p>
<p>1 4 「保育者の専門性教育が保育学生の意識に及ぼす影響-保育者養成プログラムの構築へ向けて-</p>	<p>共同</p>	<p>平成 26 年 5 月 18 日</p>	<p>日本保育学会第 67 回大会 (城南学園・大阪総合保育 大学)</p>	<p>伊澤永修、永房典之、川村祥子、尾崎博美、善本眞弓、山路千華 保育者の専門性について保育学生 3 学年を対象に質問紙調査を実施した。「実習経験のない 1 年生は「子どもの身体・健康の知識」をあげているが実習経験を経た 2 年生以降は上位項目ではなくなっている。「観察力」「共感力」を重視する傾向は実習の前後で（経験によって）変化しない。実習園の保育内容の影響を受け、運動やピアノ、歌などの「保育技能」については実習後に顕著に増加している。</p>
<p>1 5 「保育者養成における『木育』の実践が保育学生に及ぼす影響Ⅱ-『箱椅子』づくり・2 年目に生まれた保育者としての資質-</p>	<p>単独</p>	<p>平成 27 年 5 月 10 日</p>	<p>日本保育学会第 68 回大会 (椋山女学園大学)</p>	<p>前年度に幼児用木製箱椅子制作を体験した保育学生が、新規作成者のサポートをする「木育」の継続的実践の効果を、振り返りシート、質問紙調査の結果から検討した。昨年経験者は、制作者の視点ではなく、後輩を見守る・支える・教えるなどの援助者としての立場を意識していた。さらに、将来、子どもと一緒に活動することを想定して、指導のポイント、働きかけの仕方、安全面の援助、環境への配慮について学んでいることが明らかになり、保育者としての資質の育成に有効であったことが確認された。</p>
<p>1 6 「保育者養成校の学生における『保育者の専門性』獲得の構成要素」</p>	<p>共同</p>	<p>平成 27 年 5 月 10 日</p>	<p>日本保育学会第 68 回大会 (椋山女学園大学)</p>	<p>汐見和恵、尾崎博美、伊澤永修、永房典之、善本眞弓、山路千華 「保育の専門性」について、保育学生・3 年生への面接調査と質問紙調査を実施した。実習経験を経て、「遊び力」「発達の知識」「文章力」「子ども・家庭への援助方法」等、実践的な内容が挙げられた。3 年間の授業・学生生活からは、「子ども理解」「コミュニケーション力」「広い視野」「子ども・保護者への姿勢」「観察力」「想像力」「人としての豊かさ」など、人間理解や自己の豊かさなどの抽象的な回答が見られた。知識・技術の習得を前提とした豊かな感受性や人間関係を育む機会、人としての育ちや自尊感情を高める経験など、今後の学生生活や授業、体験プログラムの構築に必要な要素が確認された。</p>

17「おもちゃを活用した保育所の子育て支援」	単独	平成28年5月	日本保育学会第69回大会 (東京学芸大学)	保育所における地域子育て支援活動における「ひろば」の活動の有用性を、保育所関係者、外部支援者への聞き取り調査を行い検証した。その結果、地域の親子への意義だけでなく、保育所の園児、保育士にとって多様な人とのかかわり、発達に即した玩具で遊べる、玩具選択の機会になる等の利点があることを確認した。
【活動報告】 ・「神奈川県立子ども医療センターにおける病児の遊び支援活動」	単独	平成20年 10月10日	内閣府・神奈川県官民連携子育て支援フォーラム 全国リレーシンポジウム 神奈川県大会分科会「地域における子育て支援」発表	神奈川県立子ども医療センターの外来プレイコーナーおよび病棟プレイコーナーにおける「おもちゃの広場」(長期入院児、通院児と家族に対する遊び支援活動)についての活動報告を行うとともに、病児にとって遊びの必要性と意義、家族支援について発表した。
・病児と家族へのおもちゃと遊びの支援活動	単独	平成21年3月 20日	第4回公開セミナー「病児と遊びとおもちゃケア」 (国立成育医療センター)	神奈川県立子ども医療センターの外来プレイコーナーおよび病棟プレイコーナーの「おもちゃの広場」についての活動報告を行うとともに、病児との遊びの際に必要な配慮事項、安全・衛生に関する配慮事項、有効な玩具について発表した。
【その他】 ・「赤ちゃんからお年寄りまで楽しめるおもちゃ グッド・トイで遊ぼう！」	単独	平成26年5月 15日	「おさなご vol.280」 長野県私立幼稚園協会編 長野県民新聞社	pp. 23-26 赤ちゃんからお年寄りまで楽しめるおもちゃ、人と人とのコミュニケーションが豊かになるようなおもちゃの魅力や厳選グッド・トイ紹介。
・「低年齢児のおもちゃと遊び -表現の基礎を育む」	単独	平成26年7月 23日	芸術教育2014 Vol.93 芸術教育研究所	pp. 30-32 地域子育て支援活動の一環として行っている「おもちゃの広場」における、発達、安全性、衛生管理、コミュニケーションの促進など、おもちゃへの配慮を述べるとともに、子どもの行為・遊びの要素とおもちゃの種類を一覧表にまとめた。さらに、おもちゃの広場における子どものおもちゃとのかかわりから、発達との関連を紹介し、子どもの自発的なおもちゃとのかかわりが表現することの基礎を育むことにつながることを述べた。
・「おもちゃコンサルタント養成講座」	単独	平成26年11月 1日	「孫の力」第20号、木楽舎	p. 130 乳幼児期の遊びの大切さと乳幼児期に適した玩具を紹介。
・「木のおもちゃであそぼう！」	単独	平成27年5月 17日	「おさなご vol.281」 長野県私立幼稚園協会編 長野県民新聞社	pp. 23-26 乳幼児の五感にはたらきかけるやさしい刺激となる木製のおもちゃの魅力について解説し、国産の木材で作られた玩具を紹介した。

<p>・「時代を反映する子どものままたと遊びと保育者の役割」</p> <p>【取材協力】</p> <p>・専門誌取材協力</p>	単独	平成 28 年 7 月 23 日	芸術教育 2014 Vol. 95 芸術教育研究所	pp. 12-14 現代のままごと遊びの様相と、豊かな遊びを支える保育者のかかわり、環境についてを提言した。
<p>・子育て雑誌取材協力</p>	単独	平成 22 年 3 月 10 日	「おもちゃで遊ぼう 2010 vol.13」NPO 法人日本グッド・トイ委員会	pp. 20-21 「子どもたちに玩具と笑顔を届けたい！日本グッド・トイ委員会の病児支援事業紹介 report2」に神奈川県立こども医療センターにおける病児と家族を支援する玩具と遊びの活動を紹介。
<p>【シンポジウム】</p> <p>「親から頼りにされる保育者の子育て支援」シンポジスト</p>	単独	平成 23 年 11 月 15 日	「AERA with Baby2011 12 月号」朝日新聞社	pp. 100-107 「細かい手仕事ぬくもり安心 メイド・インニッポンのおもちゃ」に低年齢児向けおもちゃを紹介・解説。
<p>「保育の質を高める『おもちゃ』の力—子どもの遊びを育む玩具の環境・援助」</p>	共同	平成 28 年 5 月 8 日	日本保育学会第 69 回大会 (東京学芸大学)	保育所における子どもの遊びを豊かにするおもちゃ環境や援助について、および保育の質を高め、遊びを育むおもちゃの力について考える自主シンポジウムを企画し、司会を務める。